

(別紙 14) 団体むけ<屋外作業(非接触)>

ボランティア活動時の感染症予防のために

<屋外作業(非接触)>

「屋外作業(非接触)」とは、屋外にある流出土砂やがれきの撤去、農地の復旧等、ボランティア同士やボランティアと住民の間合いが常に 2m 以上確保できる屋外での作業を指します。このような活動では作業中の感染リスクは高くありません。しかし、作業前後や休憩中に注意しましょう。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
屋外(非接触)	低	低	低	低	低

<活動に入る前>

○ 活動現場のリスクを確認する

- 作業に入る前にメンバー全員で作業場所の危険箇所(足元・頭上・段差・突起物等)を確認しましょう。土砂崩れや倒木、倒壊家屋など危険性が高い場合、必要に応じて土木や建築の資格を有する方にアドバイスを受けましょう
- 安全対策に必要な装備を整え、装備がない場合は作業を中止しましょう(高所作業や重機、チェーンソー等を使う作業は適切な資格や講習を受講したメンバーが必ず現場にいるようにしましょう)
- 屋外でも間合いが取れなくなる場面が起こりやすい場所を想定して回避策を考えるか、その場で活動する人はマスクを着用するようにしましょう

<活動中>

○ 打合せをする際

- ボランティア同士や住民と作業内容について打合せをする際は必ずマスクをしましょう

○ 昼食/休憩時

- 昼食/休憩に入る時は石けん流水手洗いまたはアルコール手指消毒をしましょう
- 2m 以上の間合いを確保しましょう × 向かい合って座らないこと

- 屋内で食事/休憩をする場合は換気をしましょう
- 食事やおやつは個別配膳しましょう
 - × 箸やトングを共用しないこと
 - × 飲みものを回し飲みしないこと
- 疲労・熱中症対策
 - マスクをしての作業は疲労が強くなることもあり、熱中症のリスクもあがります。定期的に休憩を取れる体制で活動しましょう。
(2 班体制 30 分交替で活動を行う等)
 - 風通し良く日陰で、充分に間合いがとれる休憩スペースを確保しましょう。

<活動後>

- 帰路での3密回避
 - 疲れから集中力が低下しやすいので帰宅までの感染対策を再確認して解散しましょう
 - 夕食時/入浴施設等を利用する際も3密回避を意識しましょう